

見て歸き、引抱ひ長崎を退き、香山勢迫来まは
る程死骸を石を結付て富戸川の淵に投じける。叔
指問討死後、残兵力を落し悉く敗軍して富戸江
江引退く。隆基斬とて一門途を失ひせん。あくる
日、ふたふた隆基宣ふやう故家也来り、城を破り
して討死せんと思ひ切て見え来り、所詮の如く一合戦歟と
せん。武士の本意に依り出向ひ戦ひ、敵の的になりて
討死。城を破り戦ひ只取巻て兵糧責に成りやとくと
飢死せん。甲斐守左思良孫より一先落させむて
何方も中身を隠し、敵を思ふせん。武略の爲に

義を以てんとし理を尽して申され、隆基少くも其意を
らば一先を退き、閑所を求め乞静に臥せんと
す。河江より四百里西にありて貫見と云ふと、落行き隆
基宣ふに死せむ時、死せむ生甲斐守より有とんと
吉人の言なりとて時、天正十二年六月廿日隆基始に
此時殉死すといふ一門良等一時、腹切死せむとを惜まぬものなり
と諸山勢長崎を、富戸江の城へ押寄せ、陣
を作れと城中人有うとも見は我先と乱れ、城を
奪取り、勝鬨をあげて、其夜、富戸江の城へ、又
義光、尾張守、向ひ此迄迄の敵城、いかと尾張